

平成 24 年度第 5 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 24 年 12 月 11 日(火) 13:30-15:30
2. 場所 電気学会本部会議室
3. 出席・欠席者 (敬称略) : D1:3 名、D2:1 名、D3:1 名、D4:0 名、D5:2 名、他:5 名

○出席

竹下 (編修長、名古屋工業大学)、寺田 (副編修長、徳島大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、中沢 (編修広報担当役員、東芝)、船渡 (24 年度 D1 主査、宇都宮大学)、綾野 (24 年度 D1 副主査、東京高専、記録)、庄山 (25 年度 D1 副主査、九州大学)、岩崎 (24 年度 D2 副主査、名工大)、村井 (24 年度 D3 主査、東海旅客鉄道)、叶田 (24 年度 D4 副主査、日立製作所)、亀井 (24 年度 D5 主査、三菱電機)、姉崎 (ゲストエディタ、沖縄高専)、大石 (ゲストエディタ、長岡技科大)、河村 (オブザーバ、横浜国立大)、大山 (オブザーバ、ダイキン)

×欠席

山口 (24 年度 D2 主査、リコー)、高橋 (25 年度 D2 副主査、香川大学)、野口 (24 年度 D3 副主査、静岡大学)、樋口 (25 年度 D3 副主査、長崎大学)、道木 (24 年度 D4 主査、名古屋大学)、浜松 (25 年度 D4 副主査、日本大学)、近藤 (24 年度 D5 副主査、ゲストエディタ、千葉大学)、鈴木 (25 年度 D5 副主査、筑波大学)、山崎 (ゲストエディタ、千葉工大)、佐藤 (ゲストエディタ、千葉大)、赤津 (ゲストエディタ、芝浦工大)、廣塚 (ゲストエディタ、中部大)、小田 (ゲストエディタ、千歳科技大)

4. 提出資料

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 24-5-0 | 平成 24 年度第 5 回 D 部門主査会議事 (寺田) |
| 24-5-1 | 第 4 回産業応用部門論文委員会主査会議議事録 (案) (寺田) |
| 24-5-2 | 電子査読システム運用状況 (寺田) |
| 24-5-3-1~7 | 特集号の論文処理状況 (寺田) |
| 24-5-3-8 | D 部門ニュースレターへの特集論文記事掲載状況と予定 (叶田) |
| 24-5-4-1~5 | 論文委員候補者推薦用紙 (寺田) |
| 24-5-5 | 幹事団アンケート結果 (竹下) |
| 24-5-6 | 3 か月削除について (寺田) |
| 24-5-7 | 部門表彰規定抜粋 (竹下) |
| 24-5-8 | 2012 年度論文委員会名簿 (竹下) |
| 24-5-9 | 平成 24 年度第 3 回産業応用部門役員会議事録(案) (寺田) |
| 24-5-11-1 | 他学会等論文の D 部門誌への投稿論文の査読について (寺田) |
| 24-5-11-2 | 受付番号 12001482 に関する査読者 B の回答 (綾野) |

- 24-5-12-1 IEEJ Journal of Industry Applications の特集号掲載料補助報告（竹下）
24-5-12-2 平成 25 年度の英文論文誌特集号のサーベイ論文の掲載料の予算措置について（大石）

5. 議事

5.1 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

5.2 電子査読システム運用状況

資料 24-4-2 に基づいて電子査読システム運用状況の説明があり、英文誌掲載分を記載していないため登録数は少し減ったが順調である。

5.3 特集号状況確認

特集号状況に関して以下の点が確認された。

- ・英文論文誌 D 「Motor Drive and Related Technologies」特集の状況は、4 件の論文は 11 月号に掲載された。
- ・英文論文誌 D 「Motion Control and its Related Technologies」特集の状況は、10 件の論文が 1 月号に掲載予定である。
- ・論文誌 D 「Okinawa 型ロボット・組み込みシステム」特集の状況は、9 件の論文が 2 月号に掲載予定である。
- ・論文誌 D 「産業計測制御全般」特集の状況は、掲載処理論文が 11 件である。

新規案件として以下の特集号が承認された。

- ・論文誌 D 「半導体電力変換研究会」特集号
メールで審議済みの案件である。1 月の半導体電力変換研究会において特集号用のスペシャルセッションを予定している。意思確認の結果、スペシャルセッションには 12 件の応募があった。
- ・論文誌 D 「産業計測、メカトロニクス制御」特集号
毎年実施されているものであり、了承された。
- ・論文誌 D 「Okinawa 型ロボット組み込みシステム」特集号
論文掲載は 2015 年 2 月号を予定している。

大石英文誌編修長より、英文論文誌の特集号案内を邦文誌のホームページに掲載してもよいかとの確認があり、承認された。

叶田 D4 副主査より、24-5-3-8 に基づいて、D 部門ニューズレターへの特集論文記事掲載状況と予定 について報告があった。

5.4 新論文委員について

論文委員の推薦について、5件の審議があり全員承認された。承認された論文委員は、山口信一氏(三菱電機)、北川亘氏(名工大)、玉城史郎氏(琉球大)、山田親稔氏(沖縄高専)、バイディカ ザカリ氏(沖縄高専)である。

5.5 査読フローの検証について

竹下編修長より査読フローの検証についての審議依頼があり、1月以降の投稿論文から1名再査読に戻すことを決定した。明後日のD部門役員会に諮る予定である。さらに、論文幹事、主査、編修長が判定に対して責任を持つことを確認した。次回の3月の主査会にて、幹事に周知徹底する。また、査読に関して様々な文書があるので、整理をすることが必要であるのと意見があった。

議論時の意見を以下に記載する。

- ・ 事前に実施した幹事へのアンケートの結果、1名再査読および2名再査読のどちらを推進すべきかという問いに対し、2名再査読27%、どちらでもかまわない33%、1名再査読40%であった。
- ・ 2名再査読を導入して以降、ほぼ全グループで返送率が上がっている。因果関係は不明。
- ・ 2名再査読については、C判定を出した査読者が修正内容を確認できる点が良いため、もう少し続けてよいのではないかとの意見があった。
- ・ そもそも2名再査読を導入した理由は、意見交換会の意見として、もう一人の査読者の査読結果を知りたいという点を考慮したためである。2名査読自体を要求された訳ではない。
- ・ 査読期間はさほど長くなっていない。これは、返送件数が増えた点が要因と考える。
- ・ 査読者に意見を聞いてみてはどうか。
- ・ 1回目査読でC・Cの場合は2名査読でもよいのではないかとの意見があったが、論文幹事が責任を持って判断すべきということになった。

5.6 3か月削除について

3か月削除について、これまで編修長補佐が実施していたが、今後は主査が実施することが承認された。やむを得ない事情などの連絡がない場合は、90日程度(90日プラス1週間程度)で削除する。この場合に、著者には連絡をしないこととした。竹下編修長がリマインダのメールがどのタイミングで発信されているかを事務局に確認する。

5.7 部門表彰推薦について

竹下編修長より、論文査読功労賞および部門論文賞について各グループから推薦するように依頼があった。論文査読功労賞が規定に該当する方がいれば推薦すること。部門論文賞は、共通英文誌、英文論文誌も含めて、原則グループで1件を推薦すること。(ただし、

該当なしという結論もあり。) 推薦用のフォーマットは、別途竹下編修長より送付される。締切りは1月末とする。また、候補者リスト(1回目査読の結果や論文賞に値するものとのチェックがあるものなど)については事務局に依頼すること。

5.8 次期主査会メンバー候補および主査会運営について

竹下編修長より、次期主査会メンバー候補および主査会運営に関して、D4グループとD5グループは将来的に主査1名、副主査1名としていくことが連絡された。例えば、来年度は主査2名、副主査1名とし、再来年度は主査1名、副主査1名とするなど。竹下編修長から、別途、詳細案が提示される。

来年度の幹事は現副主査の技術委員会から出すことが連絡された。次期幹事の推薦は技術委員会と調整し、1月末までに竹下編修長に連絡すること。

5.9 D部門役員会報告について

時間の都合により省略された。

5.10 冊子体掲載の論文委員会名簿について

大山副部門長(オブザーバ)より、冊子体掲載の論文委員会名簿に関する連絡があり、和文論文誌の最終頁には和文誌担当の幹事のみを、英文誌論文誌には英文誌担当の幹事のみを掲載することになった。

5.11 その他

- ・査読者より二重投稿が指摘された案件について、竹下編修長、綾野 D1 副主査より経過報告があり、既発表論文での記載内容以外の点で創造性、新規性、有用性を判断していくことが確認された。手続きとしては、もう一方の査読者は現在保留していただいているが、ご辞退をしていただいた上で幹事が1件分の返送文を書き、2名査読とする。また、他部門でも同一内容論文があり、審議内容が連絡された。
- ・大石英文誌編修長より、英文誌用のホームページを和文のホームページを参考にさせていただきたいとの依頼があり、了解された。(和文ホームページを作成したのは寺田副編修長であり、了解が得られた。) ホームページ案を作成後に大石英文誌編修長から、和文誌主査会、英文誌主査会 へ開示される予定である。
- ・竹下編修長、大石英文誌編修長より、24-5-12-1、24-5-12-2に基づいて、特集号の掲載料補助に関する報告があった。

5.12 次回開催日について

今回の論文委員会は、平成24年3月14日(木) 13:00より自動車会館2階小会議室で開催することが確認された。新旧幹事も主査会に参加していただく予定である。